

おきたま 社会教育情報

Vol. 134 令和3年9月号

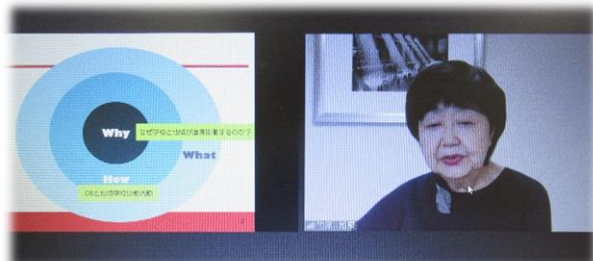
第2回放課後子ども総合プラン指導者研修会

9月16日(木)に、第2回放課後子ども総合プラン指導者研修会(オンライン講演会)が行われました。2回目の今回は中堅者研修と位置づけ、主に放課後子ども教室や放課後児童クラブの運営や環境づくりについて、新庄市パリス保育園園長の阿部 彰氏に講演をしていただきました。演題を「遊びの中で子どもは育つ～未来を生きる子ども達に必要な力とは～」とし、遊びの環境を整え、生活の計画やスケジュールを示すことで、見通しを持ち学習への意欲も高まっていくことなどをお話いただきました。参加者からは、「子ども達との関わりで大切にしていきたい考え方を改めて学ぶことができました。」「遊びの中でルールや生活習慣、関わり方などたくさんのお話を学ぶのだということがわかりました。」などの声が多数聞かれました。

今回の研修会はZ o o mを使ったオンラインでの開催となりましたが、前日に入室テストを行うなどし、大きな混乱もなく無事に開催することができました。参集型の講演会であれば、参加人数に制限を設けなければいけなかったのですが、今回はオンラインということで、140名を超える放課後子ども教室、放課後児童クラブの関係者の方々の参加をいただくことができました。コロナ禍の中でより有意義な研修会を行うにはどのような工夫が必要か、事務局として何ができるかなど、様々な可能性を探りながら今後も企画をしていきたいと思っております。



地域学校協働活動推進員養成講座(第2期)



9月8日(水)に置賜地区の地域学校協働活動推進員の研修会をオンラインにて行いました。前段は、昨年度文部科学大臣賞を受賞された長井市立致芳小学校地域学校協働活動の事例紹介をしていただきました。「少年少女獅子踊りの継承活動」、「教育山植樹」、「致芳っ子見守り隊」など地域の宝を活かした活動について説明していただきました。後段は、竹原和泉先生のコーディネートのもと、「子どもたちのために地域学校協働活動の見える化をしよう」と題してグループワークを行いました。自分の学校の地域学校協働活動を「見える化」することで、活動についての情報交換を行うことができました。また活動を「カリキュラムと関連付けて考える」ことの大切さ、「地域とのかかわりがあればあるほど、IターンやUターンにつながること。」や「みんなが自分ごととして取り組むことで学びが深まり、やってよかったと思える活動にしていくこと」などご教示いただきました。

第2回置賜地区 家庭教育支援フォーラム



9月16日(木)に第2回置賜地区家庭教育支援フォーラムを開催しました。乳幼児保育施設の関係者や教員、PTA関係者、行政職員等38名の方が参加されました。講師にパリス保育園園長の阿部 彰氏を迎えテーマを「遊びを通して育む非認知能力」、演題を「遊びの中で子どもは育つ～未来を生きる子ども達に必要な力とは～」とし、阿部先生の園での事例をもとに「非認知能力」とはどんな力か、遊びを通して「非認知能力」を育むためにどのようなことに留意すればよいのかなどわかりやすくお話していただきました。その後、「明日から使える!遊びのプログラムを作成しよう!」というグループワークを実施しました。本研修会は新型コロナウイルスの感染拡大によりZoomによるオンライン開催となりました。初めての参加という方も多くおられ、ネット環境も様々でしたが、学べる機会に参加できて良かった等、満足度の高い研修会となりました。家庭教育は教育の原点です。今後とも支援の輪を広げていくため、関係者のニーズ、連携を意識した研修会を開催していきたいと考えておりますので、ぜひ参加ください。



子どもの気持ちに共感したり、同じ目線で一緒に探求することで、興味関心が広がり、目的を持って継続した遊びができること、保育者の関わりが子どもの心を豊かにしていくのだと感じました。今後の遊びの中で大切にしていきたいと思います。



阿部 彰氏

オンラインで初めてグループワークをして、今の時代はすごいなと思いました。コロナ禍ではありますが、学べる機会に参加できて良かったです。仕事にも家庭でもためになる事を学べて良かったです。



保育の現場で働いている自分にとって、とても勉強になる内容で、明日からすぐに実践をしてみたいと思えるようなものばかりでした。



Zoomでのグループワークの様子

置賜を若い力で元気にしよう! ～「おきぼら地域クリエイター」第1回企画会議開催～

9月19日(日)に、令和3年度次世代の地域づくり中核人材育成事業「おきぼら地域クリエイター」の第1回企画会議がオンラインにて行われました。会議ではお互いを知るためのアイスブレイキングの後、地域の魅力や自分たちがやってみたいことをグループに分かれて話し合いました。高校生からは「置賜の食材を使った商品開発」「農家を訪問して果物の作り方について学ぶ」「伝統文化体験レポート」など様々な意見が出され、青年ファシリテーターがうまくかじ取りをしながら、活発な議論が行われました。今後は11月の実践を目指して準備を進めていくこととなりますが、気持ちが沈みがちな昨今、高校生や青年ファシリテーターなど若い世代のやる気や熱い思いを伝え、置賜全体が元気になるような企画を実施できればと考えております。



※本情報紙の本文は、UD(ユニバーサルデザイン)デジタル教科書体を使用しております。

【お問合せ先：置賜教育事務所社会教育課 Tel. 0238(88)8242】